



メールマガジン：自然をおそれず、あなどらず




発行：県教育庁保健体育課・沖縄气象台

「津波フラッグ」を用いた津波警報等の伝達

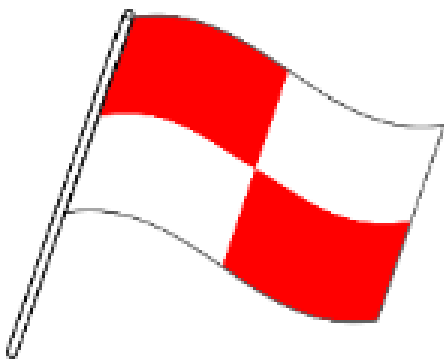
気象庁から大津波警報・津波警報・津波注意報（以下「津波警報等」という）が発表されたとき、海の中にいる人や沿岸部にいる人は大変危険です。このため、海水浴やマリンスポーツ・海釣りを行う人などに対して、津波警報等が発表されたことをいち早くかつ確実に伝える必要があります。

津波警報等は、防災行政無線に加えてテレビ・ラジオや緊急速報メールなど多様な手段により伝達されています。その一方、海水浴場等では遊泳者等への伝達手段が限られているとともに、波音や風などの影響でサイレンなどの音響や音声による伝達が困難な場合もあり、ただちに避難すべき人に津波警報等が伝わらないおそれがあります。平成23年の東日本大震災では、岩手県・宮城県及び福島県における聴覚障害者の方の死亡率が、聴覚障害のない方の2倍に上ったとのデータがあり、東日本大震災における聴覚障害者への情報伝達の問題点として挙げられました。

気象庁では、有識者等で構成された「津波警報等の視覚による伝達のあり方検討会」の報告を受け、津波警報等の伝達に赤と白の格子模様の旗（）を用いて、この旗を「津波フラッグ」と呼ぶこととしました。令和2年6月24日に規程を改正し、「『津波フラッグ』による津波警報等の伝達に関するガイドライン」を自治体等に通知しました。現在、全国各地の海水浴場等での運用が順次進められています。

沖縄県は、海に囲まれ多くの海水浴場等を有しています。海水浴場等で「赤と白の格子模様」の旗「津波フラッグ」を見かけた場合は、ただちに海から上がって海岸から離れ、高台や津波避難ビルなど安全な場所に避難し、身を守る行動をとることが極めて重要です。

「津波フラッグを見たら海から離れ、ただちに避難！」



気象庁では、今後も関係機関と連携して「津波フラッグ」を用いた津波警報等の伝達の周知・普及に努めていきます。教育関係者の皆様には、子供たちへ周知するとともに、普及への協力をよろしくお願いします。

降水確率って何？

「降水確率」はどのようなときに利用していますか？ 今日傘を持つかどうか、イベントに出かけるかどうかなど、様々なシーンで天気予報と合わせて利用している人が多いと思います。

「降水確率」という言葉は普段テレビなどで見聞きしてなじみがあるかもしれませんが、誤解されていることも多いようなので、解説したいと思います。

例えば、本島中南部の12時～18時の降水確率が80%だとした場合、次のように考えている人がいるとします。



○本島中南部の8割の地域に雨が降る。

○12時～18時の6時間のうち、8割の5時間くらいは本島中南部に雨が降る。

○40%のときと比べると、80%なので2倍くらいの大雨または強い雨が本島中南部に降る。これらはすべて間違いです。降水確率とはその名のとおり「雨が降る確率」で、次のように定義されています。

○予報区内で指定された時間帯の間に1mm以上の雨または雪の降る確率(%)のことで、0、10、20、…、100%で表現する(この間は四捨五入する)。

○降水確率0%とは、降水確率が5%未満のことであり、雨が降らないわけではない。

○降水確率30%とは、30%という予報が100回発表されたとき、その内のおよそ30回は1mm以上の降水があるという意味であり、降水量を予報するものではない。

※予報区：沖縄本島地方の天気予報の場合は本島中南部・本島北部・久米島に分かれる。

この定義にもあるように、あくまでも1mm以上の雨を予報しているので、1mmに満たないような弱い雨は予報していません。また、降水確率は「雨の降る可能性」を示すものなので、雨の降る時間や面積、降水量や雨の強さについては何も示していません。

一方で降水確率は、台風や前線のように予報区全域(本島中南部全域など)に雨を降らせやすい現象が予想される場合は高い数値となりやすく、予報区内の一部に短い時間しか雨を降らさない“カタブイ”のような現象が予想される場合は高い数値とはなりにくい傾向があります。

また、少し先の予定を立てるために週間天気予報を見るときには、その際に天気や降水確率だけでなく、「信頼度」も参考にするとい

日付	明後日 03日(水)	04日(木)	05日(金)	06日(土)	07日(日)	08日(月)
沖縄本島地方	曇時々晴	晴時々曇	曇時々晴	曇	曇一時雨	曇
降水確率(%)	20	10	20	30	50	30
信頼度	-	A	B	B	C	C

いでしょう。雨が降るかどうかの予報について、「予報が適中しやすいこと」と「予報が変わりにくいこと」をA～Cの3段階で表しています。Aは確度が高く、Cは確度がやや低い(適中率が信頼度Bよりも低い)予報となっていますので、今後予報が変わりやすいのかの判断に利用してください。降水確率をうまく利用するには、意味を正しく理解し、日々の天気予報や実際の天気と合わせて見る必要があります。きっと、降水確率の自分なりの使い方が見つかるでしょう。

メールマガジンで取り上げてほしいテーマや、各学校で行った防災に関する取組などがありましたら、次の連絡先までご連絡をお願いします。

沖縄県教育庁保健体育課

学校安全・給食班

沖縄气象台防災調査課 山口 直輝

TEL : 098-866-2726

Email : aa316008@pref.okinawa.lg.jp

TEL : 098-833-2186

Email : yamaguchi@met.kishou.go.jp

